

令和7年度 第1回上牧町総合教育会議 議 事 録

- 日 時 令和7年4月25日（金）11時30分から12時15分まで
- 場 所 上牧町役場 2階 第3会議室
- 出席者 阪本町長、永井教育長、東谷委員、渡邊委員、暁委員、福井委員
- 事務局 丸橋理事、辻村課長、吉川課長、細川課長、千葉指導主事、苧木指導主事、岡田指導主事、中本課長、土井課長補佐、高野係長、中村主事
- 次 第 開会
案件
Ⅰ 町教育行政に関する意見交換
その他
閉会

●議事概要

案件Ⅰ 町教育行政に関する意見交換

阪本町長 私がスローガンとして掲げている「学びの環境で選ばれるまちづくり」において、国際交流事業、ICT教育の推進、フリースクール事業の推進、そして認定こども園といった取組があり、特に認定こども園については今中前町長とも話をしていたが、新上牧中学校が開校となる令和8年4月以降、考えていかなければならないと思っている。上牧町の人口についても少子高齢化の課題があり、将来的に認定こども園について考える必要はあるが、まずは先ほど申し上げた3つの事業について推進をしていきたいと考えている。

フリースクール事業については、以前は11名登録されていたが、現在通われているのは3名程度になっているということであり、何名かは学校復帰しているという話を聞いている。このフリースクール事業は現在週3日間で進めているが、もう1日増やして週4日での運営の可能性について先日教育委員会事務局と協議したところである。

国際交流事業については、桃園市立桃園国民中學との交流を実施しているが、上牧第二中学校の跡地問題や新上牧中学校の話もあることから慎重に進めていかなければならないと考えている。

そして、「にぎわいと活力あるまちづくり」については、公約に掲げているとおり、スポーツで地域活性化を図りたいと考えており、社会教育課の取組であるスポーツフェスティバルにおいて、様々なスポーツを計画して実施しているところではあるが、さらに異なるかたちでの交流人口や関係人口を視野に入れながら上牧町の魅力を発展させていきたいと考えている。また、上牧町には商業施設が多くあることから、商業の活性化にもつなげていきたいと考えている。

「子育てしやすいまちづくり」については、幼児保育の充実という観点で考

えているところであり、現在は幼稚園や保育所で体操教室といった取組を実施しているところである。今後は他自治体で導入がみられるパルクールを取り入れる等して、身体のような機能を使うことができるような取組を展開することで、体力テストの結果向上を期待したいと考えている。このパルクールについては子どもの楽しみの1つとなることも期待しているところである。

永井教育長

阪本町長の政策「誰もが未来への希望を持ち 住み続けたいと思えるまちづくり」の5つの柱のなかに教育に関するものが多くあり、ICT教育の推進やフリースクール事業、中学生の国際交流事業、幼児保育に関する就学前教育、さらには歴史文化の活用、スポーツの活用、防災教育といった子どもたちや学校に関することについて、1つずつ実のあるものになるよう尽力する。

このようなことを実現していく過程で、令和5年4月から施行されている「こどもまんなか社会」を謳っているこども基本法だが、本法に子どもの意見を反映するようなことが挙げられていることから、子どもたちにアンケートや面談等様々な工夫をしながら、子どもの納得感、モチベーションを高められるように教育行政を進めていきたいと考えている。

教育行政は子どもたちの幸せのために推進しなければならないと考えている。上牧町が目指す方向性についても、歴史文化が息づくかんまきっ子を育むまちづくりを実現できるように、さらには教育で選んでもらえる上牧町になればよいと考えている。このような点について、上牧町教育委員会としてリード及びサポートをしていきたいと考えており、町長部局の各課の皆さんともしっかりと協働で進めていきたいと考えている。

阪本町長

永井教育長から今後の進め方についてご発言いただいたが、私からも1点お伝えしたい。3月31日に松浦前教育長が退任されるに際し、ご挨拶をさせていただいたが、松浦前教育長が以前からお話しされていたことがある。それは、トライアングルが2つあるという話である。1つ目のトライアングルについては、教育大綱にも記載されている知徳体である。これは生きる力を育んでいきながら、人づくりを実現していくというようなものである。もう1つのトライアングルについては、学校と地域と家庭が良好な関係を築きながら教育を推進していくというものであり、これら2つのトライアングルについては議会においても言及されていることから、引き続きお願いしたいと考えている。

東谷委員

前町長のときから上牧町は教育にすごく予算をかけていただいております。これは近隣の市町村と比較しても手厚い水準だと考えている。一方で、教育予算の厳しさというものも痛感している。大きな事業を即座に実施していただいているように、上牧町は予算額に占める教育関連費の割合は高いと思う。例えば、エアコンの設置については、今中前町長が総合教育会議のなかで「考えよ

か」とすぐおっしゃったことを記憶している。私も元は行政の立場にいたことから上牧町の財政状況はよくわかっているが、二つ返事で検討を始めていただけたことは感謝している。また、ICT についても他市町村に遅れることなく、導入いただいたことはありがたいことだと思っている。

本年度の一般会計の総額 110 億円程のうち 35 億程度、30%を超える予算が教育費として割かれている。もちろん適正化という新中学校の建設費用で比率があがっているということもあるのだろうが、上牧町の財政の様子を見ると新校舎の建築は実現しないと思っていた。しかし、松浦前教育長の意向もあったが、子どもたちには新しい校舎でこれまでとは異なる環境で学び、少しでも学習に対する喜びを伝えてやりたいと思っていたところ、前町長から「新校舎を建てる方向で進める」というお返事をいただき、教育にかける情熱には感謝している。

一方で、教育予算が効果的に使われているのかについて疑問がある。例えば ICT 機器については、学校訪問時でさえ満足する程度に使われていない。教育予算の今後の使い方やありがたさを教育委員会事務局は感じながら事業を進めていかなければならない。学校にアピールや指導を行い、割り当てられた教育予算を効果的に使えるように今後は進めてもらいたい。

阪本町長

私が町長になる前は副町長という立場、すなわち予算を削る側の立場で取り組ませていただいた。財政の部分についても総務課職員時代に担当させていただき、予算の範囲内でいかに教育予算を確保できるのかを考え、取り組ませていただいた。東谷委員から ICT 機器について指摘があったが、やはり活用しないと意味がないと考えている。

渡邊委員

受験等の様々な競争は勝つ人ばかりではなく、負ける人も必ずいる。そのような競争でこけたとしても、目先だけにとらわれずに立ち上がれる精神を子どもたちには養ってもらいたいと考えている。また、先生は日々の授業等で忙しいとは思いますが、そのような力を養えるように導いてもらいたいと考えている。

暁委員

私は「知徳体」のなかでは「体」が一番大切だと考えている。勉強をするのにも体力がないと続かないことや、コロナ流行以前に開催されていた町民体育祭での開会式において、少し長めの開会の挨拶があったのだが、高齢のかたはしっかりと立っている一方で、子どもは立ってられないという状況があり、上牧町の将来が心配になった。このような状況の背景には、昔であれば野山を自由に駆け回ることができ、自然と体力をつけることができたのであろうが、現在は先ほど町長がご発言されたようなパルクルのようにお金をかけて、体力づくりができる環境を用意してあげないといけなくなっていると思う。このようなことを町をあげて、既にあるものを活用することも含め考え

ていてもらいたい。学校統廃合の議論の際もそうだが、日本全体で少子高齢化が進んでいるため、町人口を増やすことは不可能だという話に収束してしまっているが、人口が増えている他市町村もあることから、増やすためにはどうしたらよいのかを今後考えていく必要があると考える。

福井委員

外遊びをさせたいと思っている保護者は多くいるだろうが、公園の雑草が生い茂っていることや水道が止まってしまっていること、また、危険な遊具が放置されてる等、環境が整っていないことがあると思う。予算をかけて整備されている情報端末機についても持ち帰ってくることもなく、授業参観に行っても使っているところを見たことがない。このようなことから、予算をたてる際の理想と実際の教育現場とで乖離があると思う。全員が外遊びができる環境や ICT 機器を使える環境を整えていく必要があると考える。